

希望に合わせた退院支援 －作業療法士の関わり－

川島英之[†]第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 3 (196–200) 2022

要旨

作業療法士 (Occupational Therapist : OT) は患者の生活状況を聴取し評価・検査を行った上で、目標を一緒に考え、その人らしい生活が送れるように指導・援助を行う。国立病院機構東京病院 (当院) におけるOTの退院支援について症例を交えて報告する。具体的には入院時評価や退院に向けてOTの行う患者・家族・周囲の方への指導や情報提供の方法について提示する。介入時に立てた目標に対する多職種連携によるアプローチとして、症例1では自己管理能力と関わり方について、症例2では生活リズムの整理方法について紹介する。またCOVID-19の影響による情報の共有不足に対する代替策を紹介する。OTによる支援は多職種との連携で幅の広い支援を展開することができる。情報提供の多様性が求められている中で、当院でも新たな情報発信方法を模索している。

キーワード 作業療法士, 多職種連携, 情報提供

はじめに

私たち作業療法士 (Occupational Therapist : OT) は患者の生活の不自由さを改善するために、生活状況を聴取し評価・検査を行う。その上で目標を一緒に考え、その人らしい生活が送れるように指導・援助を行う。国立病院機構東京病院 (当院) におけるOTの退院支援について症例を交えて報告する。

OT支援内容

1. 入院時評価

1) 面接

初対面の患者には資料やタブレットを用いて、作業療法の説明を行い、病前生活を聴取し、興味関心の高い作業や必要な作業を確認して目標を設定し本人同意のもとでリハビリテーション (リハビリ) 内容を決定していく。資料の活用により視覚的にも作業療法を認識してもらうことができる。

2) ADL評価

入院中は、患者の心身機能を改善しつつ安全な病棟生活を送っていただくために、病棟スタッフへ介助方法を助言し、病棟での安静度を提案する。

3) 高次脳機能評価

日常生活やリハビリ場面での観察に加え、神経心理学的検査を行って生活場面で問題となる障害を確認していく。

国立病院機構東京病院 リハビリテーション科 †作業療法士

著者連絡先：川島英之 国立病院機構東京病院 リハビリテーション科 〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1

e-mail : kawashima.hideyuki.qf@mail.hosp.go.jp

(2021年3月17日受付, 2021年12月10日受理)

Discharge Support by Occupation Therapist that Respects the Wishes of Patients

Hideyuki Kawashima, NHO Tokyo National Hospital

(Received Mar. 17, 2021, Accepted Dec. 10, 2021)

Key Words : occupational therapist, multi disciplinary team, information provision